



195号

2014/7/1

日中文化交流市民サークル「わんりい」  
東京都町田市能ヶ谷7-32-12 田井方  
〒195-0053 TEL&FAX:042-734-5100  
<http://wanli-san.com/>  
Eメール:[wanli@jcom.home.ne.jp](mailto:wanli@jcom.home.ne.jp)  
◆「わんりい」HPのアドレスが上記になりました。



雲南の子ども(2011年撮影) 撮影場所:雲南省楚雄彝族自治州武定県・協会支援第19校「老木壩小学校」にて(リス族)  
日本雲南聯誼協会は、経済発展から完全に取り残された雲南省山岳地域の少数民族を対象に、14年間に亘って教育支援活動を行っています。活動の柱となる小学校建設事業では、これまでに23校を建設、1万3千人もの子供たちに安全かつ衛生的な学習環境を提供してきました。ここでは、貧困に屈せず、明るく逞しく生きる雲南少数民族の人々やその生活をご紹介します。(写真提供/認定NPO法人日本雲南聯誼協会 <http://www.jyfa.org/>)

7月号の目次は、最終ページに掲載してあります

昨年秋、3、4日北京に滞在しましたが、北京の街がちょっと落ち着いたように感じました。私は感覚的に大雑把な人間なので、そんな感じを持ったのかもしれませんが。観察眼の鋭い方でしたら、「北京の街並みの変化は、依然として激しい」と感じるかもしれません。しかし、一時期に比べれば、確かに変化は穏やかになったと思います。

私が北京で生活するようになった21世紀初頭は、北京が大きく変わった時期でした。その変化については、部外者が無責任に意見を言えば、もう少し昔の雰囲気を残して欲しかったと思いますけれど、北京市の行政政府にしてみれば、少しでも早く立派な街並みを作り先進国に追いつきたいと考えたのでしょう。そして、土地の所有権の問題（人々は、土地を所有しないで国から借用している）や、行政権力の強さなどから、日本では考えられないほどの急ピッチで都市インフラの建設が始まりました。

北京市の西部に中関村大街と言う、南北に走る大通りがあります。円明園の東を南下して、紫竹院や動物園の付近まで続いていて、中ほどに中関村があります。

中関村と言うと、新聞等では「中国のシリコンバレー」と形容されますが、アメリカのようなIT関連の研究所や大規模な製造工場はこの付近にはありません。この通りに面した中関村（主として環状四号線との交差点付近を言うのですが）は、秋葉原のような販売店が集まった所です。秋葉原のことは余りよく知らないのですが、秋葉原よりも小さな店が多いと思います。2,3の大規模な販売店以外は、ビルの中に、間口1間ほどの店を構えて商売をしていて、かなりマニアックな雰囲気です。

この通りの、環状四号線より北には、西に北京大学、東に清華大学があります。大学の敷地が広いので、地図でははっきりしませんが、北京大学の東門と、清華大学の西門はこの通りに面しています。南の方に行くと、環状三号線との交差点近くの西側に

人民大学があります。中国の重点大学が3校もこの通りに面している訳です。

2003年頃でしょうか、環状四号線の建設が進んで、この中関村大街と交差する工事がありました。環状線がこの大通りの下を潜る予定で、ある時、大街に面した建物群が取り払われると、広い空間が東西に開けていました。バス道路から遠くには、もう出来上がった道路が見え、近くには掘り返された地面が見えていました。工事のためのしっかりした囲いも無く、バスの座席が高いので、工事の様子が見えるのですが、忙しく工事をしているようには見え、何時完成するのか不安になりました。人々が働く様子が見えませんでした。しかし、工事は着実に進んでいました。北京市内は、昼間、大型車輛の通行が制限されていますから、工事は工事用車輛が自由に走れる夜間に行われていたのです。

ある日、南に向かって直進するはずのバスが、突然右折（北京は右側通行です）して、西に向かって、走り出しました。車掌さんが乗っているのに、何の説明も無いので、ドキドキしながら乗っていたので10分も走ったように感じましたが、実際は3,4分のことなのでしょう。下で工事をしている環状四号に橋のようにかかった道（昔からの道）を渡って、今度は左折して中関村大街の方へ戻りました。

何時も乗っているバスが、突然違う方角に走り出して、私は凄く慌てましたが、時間に追われている訳ではなしと思い直して、黙って乗っていることにしました。他の乗客も知らん顔で乗っていました。日本のようにバス停にルート変更の通知はありませんでしたし、皆が何処でこの変更を知ったのか、不思議に思いましたが、後で、北京の人々は、環状四号線の工事が進めば、ある時期このように迂回するに違いないと考えていたのだと思い至りました。

お知らせは無くとも、合理的に考えて納得する人達なのだとも私も納得しました。

古代中国の戦いにまつわる慣用句が続きます。第29回では敵を欺くことにより勝利に結びつけた「声東撃西」作戦、第30回では味方が一致団結して敵と戦い勝利した「一心同体」でした。今回は戦いでは相手よりどれだけ早く行動するかが勝負の分かれ目になることを述べた「兵は神速を貴ぶ」です。さて、これはどのような作戦だったのでしょうか。

この慣用句は、それぞれの辞書に次のように載っています。

▲小学館 デジタル大辞典：

「兵は神速<sup>しんそく たつと</sup>を貴ぶ 《魏志 郭嘉伝<sup>1)</sup>から》戦争では、何事も迅速に処理することが大切である」

▲小学館 中日辞典：

「兵貴神速 bing gui shen su 用兵は神速が重要であり、つとめて主動的でなければならぬ」

この成語の出自は〈三国志・魏書・郭嘉伝〉の

「兵貴神速，今千里襲人，輜重多，难以趣利，且彼闻之，必为备；不如留輜重，轻兵兼道以出，掩其不意」  
(兵は神速を貴ぶ。今千里(の道を駆けて)人を襲撃しようとしているが、輜重<sup>しちゆう</sup><sup>2)</sup>は重く、(敵より)有利に馳せることは困難である。且つ彼らがそれを聞けば、必ず備えを固めるであろう。輜重を残し、軽騎兵を(昼夜兼行で)向かわせるなら、彼らの不意を襲えるであろう)の部分です。

三国の時期、袁紹は曹操に敗れ、彼の子袁尚、袁熙は遼河流域の烏丸族の蹋頓のところを身を寄せました。

蹋頓は機会に乗じて国境地帯を侵し騒擾を引き起こすべく、民衆の生活を破壊させようと虎視眈々と狙っていました。

一方曹操の腹心<sup>かくか</sup>の郭嘉は当時の形成を仔細に分析した上で、曹操に軍を率いて袁紹と蹋頓を征伐するようにと進言しました。曹操はそれを受けて、直ちに

大軍を引き連れ蹋頓征伐に向かいました。曹操の軍が易県地区に到達すると、郭嘉は曹操に次のような作戦を述べました。「用兵は行動の迅速を以って貴ぶ

と言います。現在我々は、千里に及ぶ遠征作戦を行っているのです。多くの輜重を携帯しており、その為行軍の速度が緩慢になっています。もし敵の烏丸が我々のこの状況を知ったら、必ずや前もって迎え撃つ準備をしましょう。(したがって)かさばって重い軍用物資を置いて軍隊を軽装にし前進させれば進軍速度が倍加し、敵に防備するすきを与えず攻撃を始められます。そうすれば一挙に勝利を得ることができるでしょう」

曹操はこの計画に同意し、精鋭部隊を統率し快速で行軍し、直ちに蹋頓の駐屯地に駆けつけました。烏丸軍は防備の体制を整えることが出来ないばかりか、驚いて度を失い、あわただしく応戦しましたが、一敗地に塗れてしまいました。

蹋頓は戦死し、袁尚と袁熙は遼東に逃げましたが、後に遼東太守の孫康に殺されました。こうして曹操の軍隊は完勝することができました。

#### 〈注記〉

1) 郭嘉<sup>かくか</sup>：(170年～207年)は中国後漢末期の武将・政治家。字は奉孝<sup>ほうこう</sup>。豫州潁川郡陽翟県(河南省禹州市)の人。曹操に仕えた軍師の1人。曹操の覇業を助けたが若死し、曹操に惜まれた。

(ウィキペディアより抜粋)

2) 輜重<sup>しちゆう</sup>：前線に送る軍需品。

私の調べた諺・慣用句 31  
兵は神速を貴ぶ  
三澤 統



イラスト ye Lin

## 【前号までのあらすじ】

今は昔、南宋の臨安市に劉貴という男が妻の王氏と妾の陳氏と3人で、貧しいながら仲良く住んでいました。ある日、妻の王氏の実家から商売の元手として、お金15貫を借りて帰った劉貴は妾の陳氏をからかって「お前を売った」と告げ、借りてきたお金を見せました。

劉貴の話信じ困惑した妾の陳氏は、里へ帰って相談しようと家を出ましたが、その夜、賭博に負けたならず者が、劉貴の家に忍び込み、劉貴を殺してお金を盗んでゆきました。

家でそのような事件が起こったことをつゆ知らぬ妾の陳氏は、道中知り合った若い男と道連れになり歩いているところを、事件を知った近所のものに捕えられ、連れ戻されました。

二人は無実を訴えましたが、若い男の荷物に、盗まれた金額と同じ15貫のお金があったことで、動かぬ証拠とみなされました。実はこのお金は、若い男が商売の掛け金を集金したものでした。洞察力のない臨安市の裁判官によって裁かれ死刑に処され、正妻の王氏は父親の勧めの再婚を断り夫の喪に服すのでした。

月日の経つのは早いと言われます。劉貴の本妻である王氏は夫の喪に服して家に閉じこもったまま早や一年になりました。

王氏の父親はいつも娘のことが気がかりで、指を折っては日が経つのを数えていました。そしてやっと事件から一年になると王家の老僕である王爺に命じて娘を迎えに行かせました。

王爺は王氏に会うと

「旦那様の一周忌を無事に終えられたことと存じます。つきましては、こちらを片付けて里にお戻りになられご再婚なさいますようにとご両親が願っていらっしゃいます」

と告げました。

王爺の言葉を聞いて、王氏も親のいうことはもっともだ、一人の生活も寂しい、両親に心配させないためにも実家に帰るのが一番よいことだと心を決

めました。そして家を片付け、荷物を纏め、近所の人々に別れを告げると王爺と一緒に両親の待つ実家へ向かいました。

季節は既に秋になっています。都を出ると人家はまばらになり田舎道がどこまでも続きます。その田舎道を更に進むと人気のない荒涼とした道に変わりました。折しも、黒い雲がみるみるうちに広がって来て、にわか雨がばらばらと降ってきました。

雨脚がひどくなってきましたので、王氏と王爺の二人は道から外れて、木々が鬱蒼と茂る森の中へ入って雨宿りをするにしました。ところが道をきちんと確認しないまま急いで森の奥に入ったので、ふと気がつく道と道を失って迷ってしまっていました。

あちこち森から抜け出る道を探して、だんだん焦っていると、荒々しく呼ぶ大声が聞こえてきました。

「俺さまは山大王じゃ！大胆にも俺さまの領地に入って来て通行税も払わずに出て行くつもりか？」

王氏と王爺はびっくりして立ちすくんでいるところに、後から一人の男が飛び出して来ました。男は頭に赤い頭巾を被り、足には黒い長靴を履いて、手に大きな刀を持っていました。

「強盗だ！」

王爺と王氏の二人は同時にそう思いました。

男は大刀を振り回しながら、二人に向かって駆け寄ってきます。王爺は王氏を庇いながら後ずさって、逃げようとしたが、強盗は王爺を見据えて怒鳴りつけました。

「どういうつもりだ？ この野郎め、逃げきれんと思うか？身に着けている金目のものを早く寄せせ！」

「金目のものなど身に着けてるものか。立派な男なら自分の力で金を稼げ！なんで強盗のような真似をするんだ！」

王爺は強い口調で強盗をたしなめましたが、強盗

は怯むどころか一層機嫌を損ねてしまいました。

「何だと？ 俺を説教しようともいうのか？ このクソ爺め！ さっさと口を閉じろ！」

強盗は怒りにまかせて、刀を一振りするとまっすぐ王爺の胸に突き刺しました。血が王爺の身体からざっとほとぼしり出ると、王爺はみるみるうちに血の気を失って地面にどうと倒れ、間もなく息が絶えてしまいました。

「なんだ、もうだめなのか？ 情けない奴だ」

強盗は刀の血を拭いながら、王氏の方へ向き直りました。

王氏は、目の前で王爺が斬られて息を引き取った様子を見て、恐ろしさのあまり体を震わせているばかりでした。そして、強盗の情け容赦のない荒々しさに立ち向かう手立てのない自分の命は今日でおしまいになるだろう、しかし、なんとか生き残る方法はないだろうかという考えを巡らしました。

「おい、お前、荷物の中に何かいいものはないか、早く出して見せろ！」

強盗は手にした刀を王氏に向けたまま言いました。

と、王氏は突然、「わあーはあーはあ」と笑い出し、「良かった、良かった、お蔭で私は自由になりました」

とほっとしたように言いました。

強盗は彼女を見つめると不思議そうに

「や、お前、狂ったのか？ 何が可笑しいのか。なんで笑うほど喜ぶのだ？」

「いえ、あなた様は私が笑ったのでびっくりなされたでしょうが、私のためにいいことをして下さったのですよ。実のことを言いますと、私の家がとても貧しいので、両親はお金に目が眩んで、仲人が勧めるまま、私をこの爺に嫁がせましたの。大王様がこの爺を殺してくださったので、私は救われたのですよ。私にとって嬉しいことじゃありませんか」

「あ、そういうことだったのか。」

強盗はじっと王氏を見つめました。

「嘘を言っているんじゃないのか。それにしても結構綺麗な顔をしているじゃないか。おい、俺につ

いて山寨へ来い。俺さまの奥方さまにしてやろう」

王氏は今どうすることもできない、応じなければ命が危ういと考えました。

「分かりました。嬉しいですね。あなた様のお気に召したというのでしたらお側にお仕えいたします」

強盗は先ほどまでの厳めしい顔に嬉しそうな表情を浮かべると、刀を納め、王爺の亡骸を山の下に投げ込みました。そして王氏を連れ、くねくね曲がった細い山道を辿って、ある屋敷の前に着きました。

強盗が小石を拾い、屋根の上に放り投げると屋敷の中の人が玄関を開け、

「親分のお帰りだあ！」

と大声で家の中に向かって叫びました。強盗はすぐさまその男に命令を下しました。

「俺は自分の奥方を連れて帰ったぞ。酒、肉、馳走をできるだけ用意せよ。今晚は祝い宴会だ。皆にもそう伝えてくれ」

その晩から、王氏は強盗の奥方になりました。

(続く)

‘わんりい’は、毎年4月から新年度になります。ご継続と新年度の会費の納入をよろしく願います。また、新入会を歓迎します。

年会費：1500円 入会金なし  
郵便局振替口座：00180-5-134011 ‘わんりい’

‘わんりい’の名は、‘万里’の中国読みから付けられました。文化は万里につながるの想いからです。

主としてアジア各地から日本に見えている方々と協力し、講座、研究会、鑑賞会、展覧会等を開催し文化的交流を通して国や民族を超えた友好を深めたいと願っています。入会されると

①年10回おたよりをお送りします。

②‘わんりい’の活動の全てに参加できます。

問合せ：042-734-5100(事務局)

◆インターネット会員の制度もあります。アドレスを頂いた方に、毎月、カラーの美しい‘わんりい’をPDFファイルでお送りします。こちらは無料です。

◆町田各所でご自由に取って頂けます。上記へお問い合わせください。

今回は鑑真(688年～763年)を中心に描こうと思う。

まず彼の生きた時代はどのような時代であったのか。それは晩年は別として唐の絶頂期であった。第6代の玄宗皇帝(685年～762年)の御世である。玄宗の時代の前半は、「開元の治」と呼ばれ国内は平和で安定し大いに繁栄した。しかし後半は政治に倦んで楊貴妃におぼれ国が乱れて行った。ともあれ平和で安定した世の中では文化、芸術などが花開くものである。

宗教界では、鑑真の評価は極めて高くいずれは中国仏教界の最高位につく人と見られていた。何も危険を侵してまで日本に渡航しなくても彼の将来は約束されていた。また玄宗も鑑真ら高僧の出国を禁止したほどである。

一方漢詩の世界を見るとこの時代にはスーパースターを輩出した。李白(701年～762年)、杜甫(712年～770年)を筆頭に枚挙にいとまがないほどである。この李白の詩に「揚州」という地名の入った著名な詩がある。親友であった孟浩然が黄鶴楼(武漢市)から揚州に向けて揚子江を下る光景を詠んだものである。

黄鶴楼送孟浩然之広陵

李白

故人西辞黄鶴楼  
烟花三月下揚州  
孤帆遠影碧空尽  
唯見長江天際流

(注：広陵は揚州を指す)

こうかくろう もうこうねん こうりょう ゆ おく  
黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る

りはく  
李白

こじん にし こうかくろう し  
故人 西のかた 黄鶴楼を辞し  
えんか さんがつ ようしゅう くだ  
烟花 三月 揚州に下る  
こはん えんえい へきくう つ  
孤帆の遠影 碧空に尽き  
ただみ ちようこう てんさい なが  
唯だ見る 長江の天際に流るるを

以前、「わんりい」の漢詩の会でもこの詩がとりあげられ、植田渥雄先生の解説をお聞きした。孟浩然(689年～740年)は、「春眠不覚暁」から始まる「春暁」の作者であることはあまりにも有名である。

またこの時代李白や王維らと親交のあった阿倍仲麻呂(698年～770年)も忘れるわけにはいかない。秀才の誉れ高かった彼は717年(19歳)に第9次遣唐使船で留学した。その後科挙に合格し、玄宗皇帝に仕え高官に上り詰めた。日本人の留学生が当時の最難関試験の科挙試験に合格するのであるから如何に聡明であったかが分かる。ちなみに詩聖と呼ばれた杜甫は科挙に合格できなかった。仲麻呂は、753年(55歳)に帰国の途についたが暴風雨で南方に流されるなど、ついに日本の地を踏めなかったのはご承知の通りである。

ここで鑑真の生涯を概括しておこう。この高僧は688年に揚州で生を受けた。俗姓は「淳于」。14歳で出家し、勉学に励み修行を続けた。26歳の時に初めて律疏(疏は注釈の意)を講じた。46歳(733年)には「淮南(淮水の南)と江左(長江下流南岸)、浄く持戒する者はただ鑑真大和上独り秀でて倫なし」と比べる者はいないとの高評価を受けている。中国仏教界における鑑真の名声は天下に轟いて行ったのである。

733年と言えば、日本に戒律<sup>1)</sup>を授けることのできる高僧を招聘するという、重大な役目を仰せつかった「栄叡」と「普照」という僧侶を乗せた第10次遣唐使船が蘇州に到着した年である。栄叡と普照はその後与えられた役目を果たすべく、血のにじむような努力をした。この間の経緯は「天平の薨」(井上靖著)を読んでいただきたいが、ついに742年鑑真は大和朝廷からの伝戒の師としての招請を受け、渡日を決意したのである。実は、招請を受けたとき鑑真は僧侶を一堂に集め、この中に日本に渡って戒律を行うため希望者を募ったが誰一人として手を挙げる者はいなかった。当時は東シナ海を渡るのは死を覚

悟せざるを得なかったからである。その場の様子を見た鑑真は自分が行くことを決意したのである。戒壇を授けるのには10人の僧侶が必要だとのことであるが、自分たちの師匠が行くとなると、知らぬふりはできなかつたと見えて結局17人が随行することになった。鑑真がようやく6度目になんとか日本の地を踏めたのであるが、6度目も危うく失敗に終わるところであった。ここで、6度の苦難を簡単に書いてみたい。

#### 【第1回】

743年(鑑真55歳)、鑑真の渡航を嫌った弟子が、2人の日本僧は海賊であると密告し逮捕され、鑑真も渡航できなかつた。

#### 【第2回】

743年、万全の準備を整えるも、暴風に遭い断念。

#### 【第3回】

744年(鑑真56歳)、鑑真と別れたくない僧により2人はまた密告され逮捕される

#### 【第4回】

744年、危険な旅に出ようとする鑑真を気遣った弟子が、勝手に渡航を中止させる。

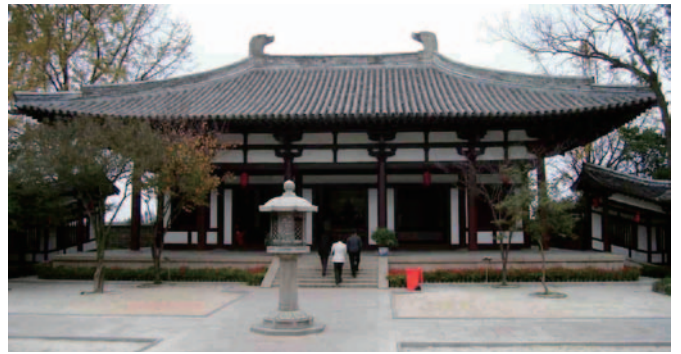
#### 【第5回】

748年(鑑真60歳)、暴風に遭い漂流、南の海南島に漂着。揚州に戻る途中で無理がたたって両目を失明。また揚州に戻る途中で体調を崩していた栄叡は死去。

#### 【第6回】

753年、(鑑真65歳)玄宗皇帝が渡航を禁止するも、鑑真や普照たちは遣唐使船に密かに乗り込む。また暴風に遭い漂流しかけるが、沖縄に漂着し島伝いに九州に上陸。ついに来日に成功する。

これを見るとき当時の渡航が如何に大変であったことが明確にわかる。唐(玄宗皇帝)が渡航の禁止政策を打ち出した中、弟子の多くも鑑真を気遣ってあれこれ妨害をし、さらには何とか出航できても何度も暴風が行く手を遮った。そして5回目の時、上述のように失明までしたのだ。この時漂着した海南島から揚州に戻るのであるが、その距離はおそらく2000km以上はあったのではなかろうか。艱難辛苦もここに極まれり、と言うべき



揚州市大明寺に1973年建立された鑑真紀念堂

である。普通の人間であれば2度目で断念するであろう。この精神力の強さはいったいどこから来るのであろう。ただただ頭が下がる。

753年、鹿児島県に上陸後、鑑真は12月26日に普照と共に福

岡県の大宰府に入った。親友の栄叡を失うという悲運にもめげず、伝戒の師を無事日本の地に足を踏み入れさせた普照の感慨は如何ばかりであったであろう。

その後さらに旅をつづけ翌年の1月に平城京に到着した。鑑真は渡日成功の日から亡くなるまでの10年間の内、5年を東大寺、残りの5年を唐招提寺で過ごした。鑑真一行が奈良の都に着いてから、東大寺に戒壇を開き時の孝謙天皇をはじめ多くの人に日本ではじめて戒律を授けた。鑑真は日本における「律宗<sup>2)</sup>」の開祖であるが、759年、奈良の現在の地に律宗の道場として唐招提寺を建立した。その後ここを律宗の総本山として戒律研究に専念し、南都六宗の一つとして現在に至っている。

ところで鑑真といえば唐招提寺の坐像を思い浮かべる方が多いのではなかろうか。これは死去を惜しんだ弟子の忍基という僧が彫像を造ったものである。日本最古の肖像彫刻であり、国宝である。目は閉じられ穏やかな表情にみえる。五木寛之の「百寺巡礼」を



鑑真紀念堂(1973年建立)に祀られている鑑真和上の摸像(中国百度より)。1980年に唐招提寺の鑑真和上像が里帰りした折に摸して作られた。

読むと、彼はこの坐像を次のように書いている。〈失明した両目は閉じられている。ほのかに浮かんだ微笑みは、すでに死を覚悟している人のように見える。鑑真は結跏趺坐したままで息絶えたと言われ、この像はその姿を写したものだ、という説もある。故国を離れ、ついに戻ることがなかった鑑真。しかし、このお顔を拝見していると、日本へやってきたことを悔いたり、悲運を嘆くことはなかったと思える。非常に強い精神力の持ち主だったということが伝わってくる。すべてを超越したような心境で最期を迎えられたのだろう、という気がした〉。

この坐像が1980年に揚州市にある「大明寺」に里帰りをした。正確に言えば、もと大明寺があった跡地に戻ってきたのである。同寺は1500年を超える古刹で鑑真が住職をしていた鑑真ゆかりの寺として知られている。今では境内には「鑑真記念堂」が建てられている。実は大明寺は、1966年から始まった文化大革命で紅衛兵に徹底的に破壊され、僧侶は追放

された。まことにひどいことをするものである。その廃墟に、14年後の1980年、坐像が荒廃した大明寺に里帰りしたのである。大変なニュースとなり、一目見ようと訪れた人は21万人にも上ったそうである。これを機に100名の僧侶がこの寺に戻り、立派に再建されたという。

鑑真の偉大さがこのことでも分かるではないか。日中両国民にこれだけ愛され尊敬される人物は果たしてどれだけいるであろうか。彼が生きていたら今の日中関係をどのように思うであろう。 (つづく)

### 注釈

- 1) **戒律**：僧侶が守るべき規則。「戒」は自己を制する誓い。「律」は集団が活動するときのルール。戒には罰則はないが、律には罰則がある。
- 2) **律宗**：戒律の研究と実践を行う仏教の一宗派。中国では正式の僧となるには戒律を修めなければならない。日本でも戒律は伝えられていたが一部の寺院の研究に留まり、授戒の儀式も行われていなかった。



“鑑真和上渡海図・「鑑真和上と唐招提寺」より”





去る6月25日(土)海へ魚釣りに行きました。

当日、3時半に目覚ましの音で目が覚めました。4時に、知人が迎えに来て、他の皆さんと合わせて8人が3台の車で出発し、八戸市内の釣具の店に寄って、針とおもりなど道具を買いました。

その後、山道を通って、階上町に向かいました。漁港で雨具や救命胴衣を着て、船に乗り海へ出発しました。約30分ぐらい沖に出たところで船を止め、一緒に行った皆さんは手早く釣り始めました。知人が餌をつけてくれて、私も皆さんの真似をして、力いっぱい、竿を一振りして、長い糸が線を引きいて、

海に抛り込まれました。まもなく、何か引っかかったような気がして、引き上げたら、けっこう大きい魚が釣れていました。「これは何という魚ですか」と聞くと、同行の知人が「ソイ」と答えました。こんなに早く釣れるとは思いませんでした。自分で初めて釣った魚を見ているとすごく嬉しくなりました。

でも、身体の具合が悪くなり吐き気を感じていました。船などは結構乗りますが、こんなに酔うのは初めてでした。魚つりの船は今までの遊覧船とは違うかもしれません。とうとう我慢ができなくて、横になってしまいました。たぶん早起きしたので、睡眠不足だったかもしれません。何も知らない内に、2、3時間も眠っていました。元気になってからまた釣りを始めました。何が釣れるか、何を釣りたいかもまったく考えず悠悠としていました。中国の諺で「太公望の魚釣り、気の向いた奴、引っかかる」のようでしょう。日本でいう「果報は寝て待て」の心境でした。

釣りながら、周りを見ているときらきりと光っている海面上、一群の鳥が尖った声で鳴いていて、この鳥は腹部が雪のように白く、翼と背中が黒で泣き声が猫に似ているので、日本人はこの鳥を海猫と呼んでいます。海猫が大きな声で鳴いていたり、飛んだりして、時には、船のすぐ近くで水面の上に止まって、楽しく泳いでいました。いや、私は海猫ではないから、海猫の気持ちはよく分からないけれども、海猫が我々をどう見ているのでしょうか。

同行の知人がせっかく釣り上げた魚一匹をまた海に戻しました。私はそれを見て不思議でたまりませんでした。釣りに来ているのに「えー、なぜですか」と聞くと、相手は何気なく「来年には大きくなります」と答えました。情のある人だと思いました。でも、釣った魚を全部返したほうがもっと完璧だと思いました。皆さんは魚が釣れた瞬間、すごくいい表情になりました。皆さんを見ているだけでとても楽しかったです。

私は全部で「ソイ」、「カレイ」が1匹ずつ、「アブラメ」が2匹、合わせて4匹を釣りました。皆さんと比べると大分少ないけれども、初めての魚釣りで、もう大満足でした。

午後2時半ぐらいに海から戻りました。

釣ったものから2匹を持って家に帰りました。「ソイ」を早速捌いて、先ず中国の紹興酒、生姜などの調味料で味づけをしておいてから、鍋で弱火で煮込みました。出来上が

ってから、私はお箸で慎重に少し口に入れました。すごく味も香りもよく最高でした。自分で釣ったものなので格別に美味しかったです。

内陸出身の私としては、海の釣りは思いもよらなかったことで、なかなか得がたい、いい体験でした。

「鄧さん頑張る・日本探検記」は、2004年(平成16年)から2006年(平成18年)の2年間、青森県八戸町の国際交流員として国際友好活動にかかわった、中国山西省太原市に住む一中国人、鄧仁有さんの日本体験です。文章は原文のままです。

## 詩人<sup>いんせりん</sup>尹世霖の童詩の世界④

尹世霖の童詩と出会う 金子總子

### huā hé cǎo 花和草

wǒ ài shénme huā wǒ ài qiānniú huā  
我爱什么花？ 我爱牵牛花。

bù wǎng àn chù qù xiàngzhe guāngmíng pá  
不往暗处去， 向着光明爬。

huār zǎochén kāi chuī qǐ xiǎo lǎba  
花儿早晨开， 吹起小喇叭。

wǒ ài shénme cǎo wǒ ài gǒu wěiba cǎo  
我爱什么草？ 我爱狗尾巴草。

bù qù dà gōngyuán mǎn shān mǎn yě pǎo  
不去大公园， 满山满野跑。

xiàngzhe qīngtiān zhǎng dàfēng guā bù dǎo  
向着青天长， 大风刮不倒。

### 花と草

私が 好きなのはどの花？

私が 好きなのは 朝顔の花

暗い処へは 行かないで

光に向かって 這い昇る

朝早くから 咲きこぼれ

小さいラッパを 吹いているよ

私が 好きなのは どの草？

私が 好きなのは えのころ草

立派な公園に 行かなくても

どんな山 どんな野でも 生えている

青空に向かって 成長して

大風が吹いても 倒れないんだよ

### yù jīn xiāng 郁金香

hóng jiǔbēi huáng jiǔbēi  
红酒杯， 黄酒杯，

yùjīnxiāng shì cǎisè bēi  
郁金香是彩色杯。

xiǎo húdié xiǎo mìfēng  
小蝴蝶， 小蜜蜂，

xiàngzhe jiǔbēi fēi fēi fēi  
向着酒杯飞飞飞。

yòu hējiǔ yòu hē shuǐ  
又喝酒， 又喝水，

húdié mìfēng quán hēzúì  
蝴蝶， 蜜蜂全喝醉。

### チューリップ

赤い お盃

黄色い お盃

チューリップは 色とりどりの お盃

チョウチョさんがくる

ミツバチさんがくる

お盃に向かって とんで 飛んでくる

お酒を飲んで

お水を飲んで

チョウチョも ミツバチも

みんな みんな 酔っぱらうよ



# 昙花

tánhuā xiǎo jiějie měilì yòu jiāoyàn;  
昙花小姐姐，美丽又娇艳；

jiùshì tài hàixiū bùgǎn ràng rén kàn  
就是太害羞，不敢让人看。

hǎobùróngyì lù xiàoliǎn yě zài bàn yè dà hēi tiān;  
好不容易露笑脸，也在半夜大黑天；

shíjiān bùdàdiǎnr gǎnjīn shōu xiàoliǎnr  
时间不大点儿，赶紧收笑脸儿。

# 月下美人

月下美人さん

美しくて 艶やかね

ただ とっても はずかしがり屋さんで  
人に見られる 勇気がないのね

やっとのことで 笑顔を見せても

真っ暗な夜中に

時間も ほんのわずかで

大いそぎで 笑顔をしってしまうのね

## 【中華は如何？】

### 簡単に美味しい小籠包

#### 【材料】(約4～5人分)

※おおよそ40個前後の小籠包が出来ます。人数に合わせて材料の分量を加減して下さい。

**薄力粉:** 250gと**強力粉**250gを合わせて混ぜておく/  
**豚挽き肉:** 300g/**茼:** 1.5束(細かく小口で切る)/**ねぎ:** 10cm(茼と同様微塵に切る)/**花山椒:** 中匙1/**生姜:** 親指頭大(微塵に切る)/**顆粒ゼラチン:** 10g～15g/**サラダ油:** 50～75cc/**鶏がらスープの素:** 大匙1/**醤油:** 大匙1/**塩:** 小さじ1/**ごま油:** 中匙1/**ぬるま湯(40～50℃):** 約300cc(小籠包の皮用。粉の重さの60%～65%[粉の乾燥状態で異なる])

**【準備】** サラダ油を中華なべに回しいれ、中火で熱し、分量の花山椒を加えて香りが出たら取り除いて冷ましておく(花椒油)。

**【皮の準備】** 薄力粉と強力粉を合せ、用意のぬるま湯を少しずつ加えて、耳たぶ程度の硬さに良く捏ね、濡れふきんを掛けて20分ほど寝かせる。

**【餡の準備】** 皮を寝かしている間に餡の準備をする。

**1** 花山椒油を作った中華なべが冷めたところで、中華なべにねぎ、生姜、豚肉を入れ、水(約70～100cc)を少しずつ加えながら同じ方向に掻き混ぜて行く。※同じ方向に混ぜる事で粘りが出ようになる。初心者やゼラチンを使わない時は加える水を控えめにした方がよい。

**2** 肉に粘りが出ようになったところで鶏がらスープの素、醤油、塩と顆粒ゼラチンを加えて、更に同方向にかき混ぜる。

**3** 最後に茼とごま油を加えて混ぜ合わせ、冷蔵庫に入れておく。

#### 【皮の延ばし方】

**1** 寝かせておいた皮だねを一捏ねし、延べ板の上でなまこ型にまとめたものを縦てに3つに切り分け、それぞれを更に、直径3cmほどの棒状にする。

**2** 棒状にした皮だねを1個が約20g相当に等分し、切り口を上にして軽く手のひらで押し潰しておく。押し潰した皮だねが乾かないように濡れ布巾を掛けておく。上記材料で約40個になる。

**3** 切り分けた皮だねを更に麺棒で直径12cm程度に、中心を厚めに周りは薄く、餃子の皮を延ばす要領で円形に延ばす。延ばした皮がくっつかないように打ち粉を十分にする。

※市販されている厚手の餃子の皮を使ってもよい

#### 【成型】

**1** 小籠包の個数に合わせて、餡のおおよその分量を決める。

**2** 延ばした皮の中心に餡を乗せ包む。親指は固定して人差し指でひだを作るように折り畳んで包む。中心が開いていてもよい。皮を延ばさないように気をつける。

**3** セイロにクッキングシートを敷き、くっつかないように間を空けて並べてゆく。

#### 【蒸し方】

蒸し器のお湯の蒸気が上がったから蒸し始める。約10分～12分。蒸しすぎると皮が硬くなるので蒸し過ぎないように気をつける。



※出来上がった小籠包はできれば中国の黒酢で頂こう！

## シルクロードが世界遺産に

陽光新聞社・顧問  
塩澤宏宣

新聞各紙はユネスコが6月15～25日に、カタールで行なわれた世界遺産会議で「シルクロード」を世界文化遺産として推薦しました。群馬県の「富岡製糸場と絹産業遺産群」と同時に認定されました。

申請された「シルクロード」は、長安から「天山回廊」を経て中央アジアに至る部分、前2世紀から紀元1世紀ごろにかけて各都市を結ぶ全長8700kmが対象。申請国は中国、カザフスタン、キリギスの3国共同提案です。

そこに含まれる要素は、玄奘三蔵がインドから持ち帰った経典を収めた「大雁塔」や「麦積山石窟寺」など中国22

カ所、カザフスタン8カ所、キリギス3カ所の系3カ所に及びます。世界遺産諮問会議は「当時のシルクロードの繁栄ぶりを示し、人的交流や思想の伝達の役に立ったことも分る」とのコメントを出しています。

シルクロード大好き人間の私にとっては感無量、まずは祝杯を傾けた次第です。この際、悠久のシルクロード、その一端を記してみたいと思います。

中国の漢の時代から、特産の絹を中央アジアからペルシャなどへ運んだ「絹の道」を一般的に「シルクロード」といいます。中国から文化を西に運ぶという中国優位の発想がありますが、その始まりは「ペルシャ発、中央アジア南部・天山経由でアルタイ（現モンゴル）」です。

西のペルシャやギリシャが東の中国の存在を知らず、中国も西のペルシャやギリシャを知らない時代に東西を結ぶ要害にアルタイがありました。秦が滅び、項羽と劉邦が争って劉邦が漢を興した時代、北には匈奴という騎馬民族が勢力を伸ばしていました。かつてその領土は、東はモンゴル高原から西はハンガリーのドナウ高原まで広がっていたようです。

漢は、その騎馬遊牧民族の雄、匈奴に金や絹布を貢物として使者にもたせていました。騎馬に絹は不要な匈奴は絹を欲しがると西アジアへ売っていました。その使者のなかに張騫や中行説がいました。

張騫は13年の長きにわたって匈奴に留め置かれていたため、漢に戻った後、西アジア方面に多くの国があることを報告しました。漢の武帝はその情報をもとに周辺国と手を結んで匈奴を攻め落とそうとしますが、匈奴もそれらの国々と交流を結んでおり、漢の思い通りになりません。やがて後漢の中ごろ（紀元100年ごろ）匈奴はようやく消滅します。

今回世界遺産に認定される「シルクロード」は前2世紀～紀元1世紀ということですから、ちょうど漢と匈奴が並立していた時代の遺産です。本格的な東西の交易が盛んになり、文化の隆盛を見るのは後漢が滅亡し、三国時代・晋・南北朝時代を経た隋・唐になってからと思われるようです。ちょうどその頃、日本からは遣隋使や遣唐使が派遣されて国の諸制度や仏教が伝来。正倉院御物を代表とする文物などが重なり「シルクロード」人気定着したのではないのでしょうか。

しかし、実際の東西交易は隋・唐の時代より800年以前から始まっていたのです。その頃世界ではローマがイタリア半島を統一（前270年ごろ）し、アレクサンダー大王の東方遠征、イランの征服（前330年）など。日本は弥生時代でした。時代の落差を感じます。次に今般のシルクロードの幕開け時代に関係ある人物を挙げてみます。

### 司馬遷（紀元前145～前93年）

前漢の武帝に仕えた史官。父司馬談の後を継いで「史記」を完成した。国中を広く旅行して実情を認識したが西域や匈奴には直接足を運んでいない。「史記」は秩序だって構成されており、伝説上の五帝から武帝に至るまでの重要な出来事を年代記風に叙述した「本紀」と人物の伝記や異国の事情を記した「史記」から成る。前99年、匈奴との戦いで善戦むなしく捕虜になった李陵を一人で弁護したことで武帝の逆鱗に触れ宮刑に処された。

### 玄奘三蔵（602～664年）

玄奘は仏典の研究には原典に拠るべきであると考

え、また仏跡の巡礼を志し、隋王朝に変わって新しく成立した唐王朝に出国の許可を求めた。しかし、当時は唐王朝が成立して間もない時期で、国内の情勢が不安定だった事情から出国の許可が下りなかったため、玄奘は国禁を犯して密かに出国。役人の監視を逃れながら河西回廊を経て高昌に至った。

高昌王である麴文泰は熱心な仏教徒であったことも手伝い、玄奘を金銭面で援助した。玄奘は西域の商人らに混じって天山南路の途中から峠を越えて天山北路へとルートを辿って中央アジアの旅を続け、ガンジス川を越えてインドに至った。

ナーランダ大学では戒賢に師事して唯識を学んだ。ヴァルダナ朝の王ハルシャ・ヴァルダナの保護を受け、ハルシャ王へも進講している。こうして学問を修めた後、西域南道を経て帰国。出国から16年を経た645年、657部の経典を長安に持ち帰った。幸い、玄奘が帰国した時には唐の情勢が大きく変わっており、時の皇帝・太宗も玄奘の業績を高く評価した。

彼は国外から持ち帰った経典の翻訳を第一の使命と考えた。また報告書「大唐西域記」を編纂し、皇帝に提出した。持ち帰った膨大な経典の翻訳に余生の全てを捧げた。さらに、持ち帰った経典や仏像などを保存する建物の建設を次の皇帝・高宗に進言し、652年大慈恩寺に大雁塔が建立された。玄奘は経典群の中で最も重要とされる「大般若経」の翻訳を完成させた百日後(664年3月7日)に玉華宮で寂した。

### 冒頓(在位前209～174年)

匈奴の単于(頭目)。一代でユーラシア草原東部に最初で強大な遊牧国家を作り上げた。即位直後、匈奴より強勢であった東方の東胡と西方の月氏を打ち破り、東は興安嶺から西はタリム盆地まで勢力を伸ばした。この時期、中国では劉邦と項羽が死闘を繰り広げ、劉邦が勝利し、漢を創立した時期。

やがて劉邦と冒頓は直接対決する。劉邦は匈奴軍に包囲されたが、膨大な貢物を差し出して和睦した。その後両国は不安定ながら和睦状態を保つ。漢から絹織物、匈奴から馬を、絹馬交易が始まる。

### 張騫(前100年ごろのひと)

漢の武帝は匈奴を包囲して押さえ込むため、相手に匈奴北方の月氏を選んだ。張騫を使者に立てたが、



玄奘が持ち帰った経典が収められている大慈恩寺大雁塔  
(中国陝西省西安市)「中国百度」より転載

匈奴の領地を越える時、秘密を見破られて捉えられた。単于は度胸のいい張騫に妻を与えた。約10年が過ぎ、子供も生まれた。やがて監視の間を見て脱出、月氏に向かった。

途中で大宛に立ち寄る。漢に友好的な大宛の支援で無事月氏に着いた。しかし月氏は漢と協力して匈奴を打つことに同意せず、結局張騫は手ぶらで帰国することになるがその帰途再び匈奴に捕えられた。

おりしも匈奴は単于が死んだ後の後継者選んで混乱していた時で隙を見て間へ逃げ帰ることができた。本来の仕事は出来なかったが、彼は大きな副産物をもたらした。漢が全く知らなかった中央アジアから西アジア地域の情勢(兵力・産物・地利等)の情報である。中央アジア・西アジアの知識に関して、張騫は後の玄奘と双璧といえる。

### 中行説(前2世紀前半のひと)

漢から匈奴に派遣されたが、そのまま冒頓単于に仕える。中行は匈奴の内政・外交など様々な分野で匈奴のための提言を行なう。彼は匈奴と隣り合わせの燕の生まれなので、匈奴の生活様式や社会制度を熟知していた。漢の使者の要望をことごとく退け、匈奴に尽くした。

### 【後記】

この文を書きながら、中国は心の底から「中華」であり「中国」なんだな～と思いました。

南蛮とか東夷・西戎・北狄、そして匈奴など。周辺の国や民族をあらわす文字は漢和辞典を見るまでもなく「ウエカラメセン」です。この考えは現在も変わっていないと感じるのは私だけでしょうか。

読者の方には今まで英会話に挑戦して途中でギブアップされた方もおられるのではないのでしょうか？ いや大部分の人はそうなのです。繰り返しになりますが、その理由は勉強方法が間違っていたからです。海外に長期滞在しないとうまくなれないという人がおられますが、日常会話程度は日本でお金をかけずに充分できます。

英会話の本や CD を買って、何回 CD を聞きましたか？ 500 回以上聞いて覚えようとした人は多分皆無です。でもその程度やらないとダメです。それも実際に使うような表現を覚えないと無意味です。日本の財政悪化とか、集団自衛権というような表現を覚えても実際使う機会はありますか？

一番皆さんが使う可能性の大きい表現を例示しました。簡単に短い文章で話すのがコツ。完全な文章にはなっていないけど、日本の会話でもそうではないですか。但しパッとすばやく口から出てくるまで練習してみてください。

## 1. 海外から日本に観光に来た人との会話

日本に来たのは初めて？

First time to visit Japan?

どこへ行くのですか？

Where do you go in Japan?

温泉に行ってみたら？

How about hot spring?

お湯は熱いから気をつけて。

Be careful. Hot water too hot for you.

刺身はたべましたか？

Have you tried Sashimi (raw fish)?

日本に来たらやっぱり食べないとね。

When in Japan do as Japanese do?

(When in Rome do as the Romans do. 日本版表現にして)

地下鉄路線多くて日本人でもわかりにくいよ。

Many subway lines in Tokyo. Too difficult even for Japanese.

## 2. アメリカを初めて訪問

### (1) アメリカに来る夢がかなった

America Oh my dream has come true.

(歌手のドリカムから想像すればいい)

(この場合キチンと It was my dream to visit…

とする人が多いですが、実際の会話ではオーバーなジェスチャーで喋ったほうが感じが伝わります)

### (2) 時差ぼけで余り食べられなかった。残念。

I had a jet lag (時差ぼけ)

時差ボケという単語を知らねば Now in Japan midnight と時計を指して言えばいい。It's a pity (残念だ) I cannot eat steak. (現在形で充分伝わる)

### (3) 今度は赤毛のアンの小説の舞台を訪ねてみたい。

I read "Anne of Green Gables" and was very much impressed. (深い印象)

So next time I want to visit Prince Edward in Canada.

くどいようですが、ポイントは下記のとおり。

### (1) 完全な文章にしない。知っている単語で短文で充分。例えば

It is difficult to study French because pronunciation……

というような場合には、It is は省略しても構わない。Difficult to study……。これでオーバーに抑揚を付けたほうが通じる。

## (2)文法ミスなど恐れない。私の英語で貴女からしないの？ ぐらいの度胸が必要です。

筆者は以前某会社のご夫妻とアメリカ人夫妻の席に招待を受けたことがあります。帰国子女の若い女性が通訳をしていましたが、彼女が席を外し

たときに会長夫人が堂々と90%日本語で料理を説明していました。美味しいというのに、表情豊かにVery Goodという程度ですが、最後にアメリカ人のご夫人は彼女の説明が最高だったと私に言っていました。

結局言葉がうまい下手ではなくて、いかに伝えるかという気概です。日常会話の大半はこのやり方でいいのではないのでしょうか。(続く)

### 中国の笑い話 17(「365夜笑話」より)

#### 第40話：一言もしゃべらない

子供が、学校で試験を受けた後、非常に嬉しそうに家に帰ってきた。

コソ泥の悪癖を持つ父親が訊ねた。

「試験は通ったのかい？」

「そうだよ、お父さん。僕のこと誇りに思っているよ。今日は口答試験だったけれど、僕は一言もしゃべらなかったからね」

#### 第41話：南極探検家

子供がある日突然、父親に訊いた。

「パパが子供の時、おじいちゃんはパパを叩いた？」

「ああ、叩いたよ」

父親は答えた。

「じゃあ、おじいちゃんが子供の時、おじいちゃんのパパは叩いた？」

「ああ、おじいちゃんのパパも叩いたと思うよ」

と笑いながら答えた。

子供は暫く考えた後で言った。

「パパ、もしパパが僕と協力する気があるなら、僕たちは、このような、暴力行為の繰り返しを直ぐに断ち切ることが出来るよ」

#### 第42話：悪い循環

子供がある日突然、父親に訊いた。

「パパが子供の時、おじいちゃんはパパを叩いた？」

「ああ、叩いたよ」

父親は答えた。

#### 第43話：節約

小嬌は、母親の首にかじりついて言った。

小嬌「お母さん、私の新しい鉛筆、全部、三つに切って短くして頂戴。」

母親「新しい鉛筆を三つに切ってしまうなんて、もったいないじゃないの！」

小嬌「もったいなくないのよ。先生が、短い鉛筆を沢山使い切れば、それだけ儉約したことになるんだよ、って仰ったのよ！」

#### 第44話：自己表現

余り教養の無い青年が、自分を有能に見せたいと思い、上着のポケットに万年筆を一本挿して歩いた。

それを見た人々が皆、彼は学があるに違いないと言いつつ。

それを聞いた青年は、嬉しくなり、もう一本万年筆を加えると、人々は羨望の眼差しで、「記者か、そうでなければ編集者に違いない」と話し合った。

青年は更に気を良くして、五本の万年筆を挿して歩いた。

それを見た人々は不審に思い、疑わしい目で彼を見て言った。「彼はきっと万年筆の修理屋なんだろう！」

(有為楠記)

今回はチケットの購入方法や車内での過ごし方等を紹介しましょう。

乗車時間は長く、車内の快適性も低く、席も自由席のみではありますが、一般的なスリランカ人の日常生活を観察し交流できる可能性があるので普通列車がお勧めです。極論すれば普通列車のチケットは列車が発車する直前まで売っているのも簡単に手に入れる事が出来ます。でも、これは地元の鉄道を使い慣れた人の話です。

慣れていないスリランカ人にとっても直前にチケットを購入するのは難儀な事のようなので、シンハラ語を喋れない外国人観光客が普通列車のチケットを直前に購入することはほぼ絶望的な話でしょう。だからと言って、普通列車のチケット購入を諦める事はありません。乗車予定日の早朝に散歩がてら駅まで行って購入すれば良いだけの事です。ついでに、通勤通学列車の到着毎に起こる喧騒を体感してみるのも楽しい事ですし、購入後に宿に戻ってゆっくり朝食を食べ出発時間まで寛ぐのも良いでしょう。

快適な列車での旅をお望みの方には、料金が普通列車の2倍程度しますがインターシティと呼ばれる全席指定の急行列車がお勧めです。キャンディ行きは28日前から、その他は10日前から予約可能です。インターシティの他にも一部の早朝発列車と夜行列車が予約できます。

ターミナル駅のチケット販売窓口は等級毎に窓口が分かれていますので、其々の窓口に並んで下さい。コロンボ・フォート駅では、更に行先ごとに分かれていますので要注意です。

ターミナル駅以外の小さな駅では窓口は1つしかなく、列車の到着時間の直前にしか開きません。それでも列車はお客がいる限り待っていてくれるので慌てる事はありません。多分、どこの駅の窓口にしる旅行者はマゴマゴすると思いますが、周囲にいるスリランカ人達が必ず手助けしてくれる事でしょう。

2011年より民間観光会社が鉄道事業に参画し始めています。今のところ自前の機関車が無いので、国鉄のインターシティに1～2両の革張りのリクライニングシートと個別の冷房等が装備され、食事や飲み物がサービスされる豪華客車を連結して営業をしています。インターシティに連結して運行するので、当然所要時間は同じです。それなのに料金4～5倍しますが、観光客とスリランカ人富裕層には大人気で予約を取るのが難しくなっています。

無事にチケットを手に入れる事が出来たら、次は始発駅での乗車方法です。自由席のチケットをお持ちで是非とも席に座りたい方は、必ず30分以上前には駅に着いて下さい。着いたら先ずは改札所の前にあるボードでホーム番号を確認して下さい。

出発時間の30分ほど前から改札が始まるので、速やかに改札を終わらせてホームに移動し列車の入線待ちます。列車がホームに入線して来たら素早く列車に乗り込み、席を確保して下さい。前回にも書きましたがキャンディに向かう方は右側の席を確保するのを忘れなく。

指定席のチケットをお持ちの方は、慌てる事はありませんが15分ぐらい前には駅についてホーム番号を確認してください。あとは出発時間まで駅構内を探検したり、等級毎の待合室をご利用ください。

列車が動き出し、景色を眺めたりしているうちに、車内には旅行客以外にも色々な商売人が乗っている事に気が付くでしょう。飲み物やお菓子、ランチパック、オモチャを持って車内を行き来している人達です。車内だけでなく、駅に停まる度にホームには食料品等を売る人達が集まってきて賑やかになります。

先日TVで、福岡在住のスリランカ人男性が一時帰国して、母校で野球の指導をするという番組が放映されました。この番組の中では、調理用のスライサーを列車内に持ち込んで大根やニンジンを使って実演販売している場面や、鳩笛のような楽器を列車内で吹きながら売っている場面がありました。



車内やホームで物を買う時に注意する事が2つあります。1つ目は食料品に関する事です。

スリランカの人食べても平気な物でも、旅先で疲れている体には刺激の強すぎる食べ物が多いので十分注意して下さい。ランチパックカレーやお菓子等は油や辛味の強いスパイスを多用した現地向けの味付けなので、一口食べてみて危ないと思ったら食べるのを止めて下さい。周囲の人がお裾分けしてくれる事もあります、断りづらい事ですが同様の注意が必要です。

2つ目はお金に関する事です。スリランカの人には良い人が多いのですが、中には観光客を騙そうとす

る輩もいます。支払の時には、周囲の人に確認してもらって下さい。恐らくこの人達は、何か旅人の世話をしたくてウズウズしていたでしょうから、商売人の動きを自分の事以上にしっかり見てくれるでしょう。

それでは、良い旅を！

### 使用済み古切手と書き損じの葉書でご支援を！

日本スリランカ文化交流協会では、スリランカへの教育支援の為、古切手と書き損じ葉書を集めています。古切手は周囲を1cmほどを残して切り取り、おついでの折に田井にお渡し下さい。

## スリランカの鉄道を楽しむサイト「Sri Lanka Railroad Scenery」

<https://www.flickr.com/groups/srilankarail/>

赤岡健一郎さんの「スリランカの鉄道」を拝見しているうちに、ふと、スリランカの汽車のある風景が見たくなって、スリランカのヤフーを検索した。実は、子供の頃から結構汽車の旅が好きで、外国のどこに行ってもわがままを言って汽車に乗る機会を作った。それで若しスリランカに行くことがあれば、どんな汽車の旅になるのかと思ったのが検索の理由だ。

そんな動機で、何気なく開いたスリランカのサイト。

### Sri Lanka Railroad Scenery

(<https://www.flickr.com/groups/srilankarail/>)

ある、ある、あるのだ！ 汽車好きにはたまらない胸がドキドキするような美しいスリランカの列車の姿が満載されている。

さまざまなスタイルの汽車が、青々とした紅茶畑の中、海岸沿いの崖っぷちなど、スリランカの風景の中に溶け込んで走っている。中にはすれ違う汽車の風圧にもめげず窓から身を乗り出している人、線路の上を悠々と歩いている人たち、ホームからこぼれ落ちそうにあふれる人々。緑色の風を頬に感じながら絵本を見ているようで見飽きない。

スリランカは南インドの先端から海峡を越えて見える、北海道より小さく、九州を二つ合わせた程度のさほど大きくはない島国だ。が、イギリス植民地時代に、スリランカ内陸のコーヒーや紅茶などの農産物の輸送



の為に敷設されたのが最初で、今はトラックなどの輸送による割合が高くなっているものの国の広さからいえば未だ鉄道王国といえるのかも。 (田井)

## 2014あさおサークル祭

於：川崎市立麻生市民館 視聴覚室&大会議室

2014年6月7日(土)

6月7日と8日、川崎市麻生市民館利用団体が実行委員会を結成し、「2014あさおサークル祭」を開催した。

‘わんりい’は、6月7日(土)午前は、視聴覚室で、当会のお宝である中国京劇界の人間国宝・王金璐主演の京劇ビデオ「長坂坡」鑑賞会、午後は大会議室で山下孝之さんとお弟子さんたちによるケーナ演奏会に参加した。

視聴覚室(10:00～12:00)で上映の京劇ビデオ「長坂坡」は、王金璐氏が日本でその素晴らしい演技を披露した唯一の貴重な記録で、当時、王金璐氏は既に76歳の高齢であったが、衰えぬ眼力、磨き抜かれた足技は圧巻である。昨年に続いての上映だが、今年は氏の愛弟子・張紹成氏の解説で一層その見どころを味わうことができた。また、王金璐氏の人柄と演技を知る‘わんりい’の仲間たちは、張紹成氏が語る、氏来日の折の思い出話に耳を傾けて懐かしんだ。昨年は30名を超える参加者だったが、今年は生憎の荒れ模様の天候で、参加者は17名と少なめだったことが惜まれる。

午後の大会議室(14:30～15:30)では、昨年に引き続き、山下孝之さんと山下さんの教室の生徒さんたちによる、アンデスの民族楽器・ケーナ演奏が披露された。生徒さんたちの演奏は、技量も向上し、人数も増え、楽しそうに演奏されていた。私たちもいろいろな音色が合わさる合奏の良さを楽しんだ。

ケーナ演奏で3年目の今年、山下孝之さんの演奏はさらに磨きがかかりさすがの音色だった。加えて、今年は昨年にも増して沢山の手作りのケーナを持参され、それぞれのケーナの音色に合わせた曲を選んで披露して下さった。ケーナのサイズや太さによる音色の違いとともに曲の持ち味などより深く味わえた。

悪天候にも拘らず、用意の100席は殆ど満席だった。(報告:田井)



◆わんりいの催し **ボイストレーニングをして  
日本の歌を美しく歌おう!**

- ◆動きやすい服装でご参加ください  
まちだ中央公民館・6F視聴覚室
- ▲2014年7月22日(火)、8月26日(火)
- ▲時間：10:00～11:30
- ▲7・8月の練習歌「花は咲く」
- ▲講師：Emme(歌手)
- ▲会費：1500円(会場使用料・講師謝礼など)
- ▲定員：15名(原則として)
- 申込み：☎042-735-7187(鈴木)  
E-mail: wanli@jcom.home.ne.jp(田井)



◆わんりいの催し **中国語で読む・漢詩の会**

- ▲場所：まちだ中央公民館・学習室7
- ▲月日：2014年7月13日(日)
- ▲時間：10:00～11:30
- ▲講師：植田渥雄先生  
(現桜美林大学孔子学院講師)
- ▲会費：1500円(会場使用料・講師謝礼など)
- ▲定員：20名(原則として)
- \* 録音機をお持ちの方はご持参下さい。
- ◆申込み：☎090-1425-0472(寺西)  
E-mail: ukiuki65@yahoo.co.jp(有為楠)



◆まちだ中央公民館行き方：小田急線南口徒歩5分/横浜線ルミネ口徒歩3分 町田市原町田6丁目8-1 町田センタービル109

**横浜シュタイナー学園・花岡中国文化講座**  
花岡先生と中国の子どもの歌を歌おう!  
(参加無料)

- 十日市場地区センター(定員：20名)  
〒226-0025 横浜市緑区十日市場町808-3  
☎045-981-9573
- 7月9日(水)、7月17日(水) 10:05～
- 申込&問合せ：花岡風子 ☎070-6465-5385

**張紹成「心身道場」千歳船橋教室**  
【生徒募集】

- 意拳気功 気功で健康を取り戻しませんか**  
気功養生に必要な意識、呼吸、動きの基本が、すべてこの方法に集約されています。
- ▲日時：毎水曜日 14:00～15:00(第5週は休み)
  - ▲会場：世田谷区千歳台1-22-21 鈴木ビル2F  
(小田急線千歳船橋 下車徒歩8分)
  - ▲問合せ：☎048-477-6961
  - ▲講師：張紹成(中国気功・武術家・京劇俳優演出家)

【意拳気功の特徴】

- ・心拍数が上がりず、酸欠にならない
- ・老若男女に安全な運動である
- ・インナーマッスルを鍛え、太らない体質になる
- ・骨密度を増加させ丈夫な体を作る
- ・足腰を鍛え、バランスアップ・転倒防止する
- ・深い呼吸で内臓機能回復し免疫力増強させる
- ・想像力で身体を動かし脳を活性化させる



**横浜ユーラシア文化館・紹介**

先日「福を呼ぶ中国版画の世界」展の招待を頂いて初めて、横浜ユーラシア文化館を訪れた。東洋学者江上波夫さん(1906～2002年)が横浜市に寄贈した考古・歴史・美術・民族資料約2500点、文献資料約25000点をもとに、2003年3月に開館したミュージアムとのことで、以来、ユーラシア各地の文化を伝えるさまざまな資料を「砂漠と草原」「色と形」「技」「装う」「伝える」「交流」のコーナーに分けて現在約250点展示しているという。

常設展示は、年1、2回の部分的展示替えの他、年に何回か企画展を行っている。「福を呼ぶ中国版画の世界」展の紹介は間に合わなかったが、上記の展示会に続けて下記が開催される。みなとみらい線「日本大通り」駅下車でそのまま館内に入れる。

【特別公開】フィリピンの土器

- 2014年6月17日(火)～7月13日(日)(月曜休館)
- 9:30～17:00(入館:16:30)
- 会場：2階常設展示室(一部)
- 観覧料：一般200円、小・中学生100円  
事前の電話申込みで、館学芸員が説明下さるとのことです。
- 問合せ：☎045-663-2424 Fax.045-663-2453

**岡上中国語研究会新会員募集**

- 中国語を中国人先生から直接聞いて話して勉強してみませんか? 中国語初めてのの方大歓迎。直接見学も大歓迎。
- 毎週土曜日 10:00～12:00
  - 麻生市民館岡上分館(215-0027 麻生区岡上286-1)
  - 講師：劉冠群先生(北京出身)
  - 会費：月謝4,000円
  - 問合せ：☎044-988-2031(本間<sup>ほんま</sup>)  
E-mail: tizm2008@jcom.home.ne.jp(和泉<sup>いずみ</sup>)

参加無料

知ろう！世界の国々のこと  
**「世界最極寒の国・サハ共和国ってどんな国？」**

世界で一番寒い国として紹介されるサハ共和国はどこにあるのでしょうか。そして、この極寒の地域で人々はどのように暮らしているのでしょうか。



お話し下さる杉嶋俊夫氏は、昨年春4か月間、サハ共和国の北東連邦大学で日本語教師として教鞭をとられました。映像や動画をふんだんに交えて、北東連邦大学のこと、同大学の(元)同僚たち、日本語を学ぶ学生たち、そして、ヤクーツク市内の様子などをご紹介させていただきます。



一緒にサハ共和国の風土や生活に触れてみましょう！

- まちだ中央公民館・視聴覚室 定員：30名  
小田急線南口徒歩5分/横浜線ルミネ口徒歩3分  
原町田6丁目8-1 町田センタービル109
- 2014年7月11日(金) 14:00～15:30(開場13:30)
- 講師：杉嶋俊夫(講師紹介下記)
- 問合せ＆申込：☎042-734-5100(わんりい)

**【杉嶋俊夫 略歴】**東京都町田市生まれ。千葉大学卒。大学で認知心理学を専攻、途中で言語学へ転向、シベリア先住民の言語を学ぶ。院在籍時に西シベリア・トムスクの大学に留学したことがきっかけで、トムスク市やロシア西部・リャザン市にある大学で日本語を指導した。その経験により、2013年3月中旬から7月にかけてサハ共和国で教鞭をとった。

曹雪晶(Cao XueJing) 二胡演奏会

中国伝統楽器・二胡とピアノの旋律  
 悠久の音色に心を癒す  
 曹雪晶(二胡) & 多田聡子(ピアノ)

2014年9月15日(月・祝) 15:00開演  
 藤沢市民会館小ホール <http://f-mirai.jp/archives/16965>

藤沢市鵜沼東8-1  
 JR・小田急・江ノ電、藤沢駅、南口下車徒歩8分

- ▲ プログラム 三門峡暢想曲/チャールダーシュ/蘇州夜曲/悲しい酒/百万本のバラ ほか
- ▲ 全席指定：3,000円 [発売中]
- ▲ 問い合わせ：茅ヶ崎楽友協会事務局 (0467-82-3744)

[知らないブラジル] 写真家5人が撮影の驚きと魅力に溢れた  
**写真展ブラジル** [http://www.earthplaza.jp/ailec\\_event/brazil?instance\\_id=](http://www.earthplaza.jp/ailec_event/brazil?instance_id=)

6月7日(土)～7月21日(月祝) ※祝日を除く月曜休館  
 10:00～17:00(入場16:30まで)

神奈川県立地球市民かながわあーすぷらざ/3F企画室  
 JR根岸線「本郷台」駅 改札出て左すぐ

- 関連イベント: 映画「ブラジルから来たおじいちゃん」上映  
2014年7月11日(金) 19:00～20:00
- ▲ 場所：5F映像ホール 無料/申し込み不要
- ▲ 問合せ：あーすぷらざ ☎045-896-2121

'わんりい' 195号の主な目次

北京雑感(86) "お知らせ" の続き .....	2
諺・慣用句(31)「兵は神速を貴ぶ」 .....	3
媛媛讲故事(65)「十五貫」V .....	4
城市めぐり(34)「揚州市」II .....	6
日本探検記(15)「魚つり」 .....	9
詩人尹世霖の童詩の世界④ .....	10
中華は如何? 「小籠包作り方」 .....	11
シルクロードが世界遺産に .....	12
外国語習得法③実際に使える表現を覚える .....	14
中国の笑話17 .....	15
スリランカ(79)スリランカの鉄道3 .....	16
スリランカの鉄道を楽しむサイト .....	17
'わんりい' 活動報告・あさおサークル祭 .....	18
'わんりい' 掲示板 .....	19・20

【2014年7月・8月の定例会】

- ◆ 定例会：7月17日(木)、8月5日(火) 13:30～  
三輪センター・第3会議室
- ◆ 8月号のおたよりはお休みです。皆さまよい夏をお過ごし下さい。